



総合周産期母子医療センター12周年を迎えて



明けましておめでとうございます。総合周産期母子医療センターが開設されて、満12年が経ちました。最近、痛ましい虐待のニュースをしばしば耳にします。昨年度の児童相談所への相談件数は12万3千件であったことが報道されています。5年前の2012年は6万6千件ですので、約2倍に増えたこととなります。また、実父母、継父による虐待や虐待死に関するニュースが報じられない日は無いような状況です。山口県でも、昨年5月には2カ月の乳児が自動車の中に放置され亡くなった事件がありました。母親は育児に疲れて長時間パチンコをしていたと報道されました。育児は大変です。はじめての育児はわからないことだらけです。2人目以降は、上の子どもの面倒も見なければならぬので、さらに大変になります。イクメンという言葉が流行していますが、生活のために家族のために必死で働くのが精一杯で、家族のための時間を取れない父親も多いと思います。そうすると、どうしても育児は母親の肩にかかってくる。児童虐待死で最も多いのがゼロ歳児虐待です。またその半分がゼロカ月虐待です。十分に身体が回復していないところに、育児の肉体的負担と慣れない育児による精神的負担が一気にかかってくるためです。国でも何とか母親を支えて行こうと2016年に母子保健法が改正され、各地に子育て世代包括支援センターがつくられることになりました。

山口県の子育て世代包括支援センターでは、2015年に下関市が先行し、今までに宇部市、光市、岩国市、長門市、山陽小野田市、周南市、山口市、下松市、防府市、萩市につくられました。2021年3月末までにすべての市町に設置されることが決まっています。包括支援センターが行なう事業の1つに妊婦健康診査事業があります。具体的には、産後2週間と産後4週間の健診に補助券が交付されます。従来より、産後4週間健診は、ほとんどの産婦人科で母体の身体的な回復を確認する為に行なわれてきました。産後2週間健診は、一部の施設で母乳育児外来として退院後1週間目の母児の状態を確認する為を実施されてきましたが、今後はすべての施設で実施される様になります。現在、山口市と宇部市が先行して開始されています。順次、各市町で実施されるようになります。産後2週間は、妊娠により増加していた女性ホルモンが急速に減少することに起因したマタニティーブルーズ(一時的なうつ状態)を引き起こしやすい時期です。この時期にホルモンのアンバランスで不安定になられた方を早めに察知し、母児の支援につなげる取り組みです。産後健診の補助券の中にエジンバラ質問表という事前アンケート用紙があります。自己調査表ですので、医療機関を受診する前に、素直な気持ちでアンケートを記入し持参して下さい。必要に応じて市町の支援や専門医療機関への紹介が行なわれます。また、妊娠・出産包括支援事業の中に産後ケア事業があり、僅かな負担で宿泊型産後ケアを受けることも可能になります。専門の助産師によるケアを受け、1日ぐっすり眠れば、元気が出てきます。

今年は、冬期オリンピックが開催される年です。平和の祭典が無事に開催され、日本選手の活躍が見られることを願っています。本年もよろしくお願い致します。

総合周産期母子医療センター長 佐世 正勝



「おぎゃー!!!」
in 助産院 Sun

助産院でお産ができる方は、
 ※ 妊娠経過が正常な経産婦さんで、医師より助産院でのお産が可能と言われた方
 ※ ご本人とご家族が、助産院でのお産を希望されている方
 ※ 当病院の産科外来を受診されている方です。

都合により
掲載は控えさせていただきます



センター稼働状況

分娩数	51件	緊急帝王切開	4件
母体搬送	4件	NICU稼働率	74.2%
新生児搬送	1件	MFICU稼働率	78.5%

(平成29年12月)

「今年の主役は『戌』！」



by. お飾り隊

編集後記

2018
謹賀新年

皆さま どんなお正月を迎えられましたか?
本年もよろしくお願いたします。

(C.K☆N.S☆Y.M☆K.H.)



周産期センター
キャラクター
マミー&メイ